

Techno-Ocean News



www.techno-ocean.com

April 2007

No. 25

CONTENTS 目次

トピックス

海洋基本法が成立.....1

海事クラスターによる国際都市「神戸」の再生を
海洋政策研究財団調査役 中地 登.....1・2

「しんかい6500」1000回潜航達成
独立行政法人 海洋研究開発機構 高川 真.....3

今年予定の主な海洋関係会議・講演会・イベント.....4

海洋基本法が成立

わが国の海洋政策全般を包括する「海洋基本法」が今国会で成立した。4月3日の衆議院に続き、20日の参議院本会議で採択されたもの。同時に「海洋構築物等に係る安全水域の設定等に関する法律」も賛成多数で可決、いわゆる海洋2法が成立した。これにより、11省庁にまたがる海洋行政は首相を本部長とする総合海洋政策本部で基本戦略が練られることから、従来の縦割り行政の弊害は解消され、米国、カナダや中国、韓国に比べて立ち遅れていた海洋に関わる組織体制もこれを契機に強化されると期待される。7月中に施行の予定。

海洋基本法は海洋政策の基本理念のほか、国・地方公共団体・事業者・国民の責務を明らかにし、ならびに海洋基本海洋基本計画の策定など海洋に関する施策の基本事項を定めるとともに、総合海洋政策本部の設置を明記している。この中で、海洋基本法は海洋行政を総合的かつ計画的に推進するために基本方針を定めるが、計画はおおむね5年ごとに見直すとしている。基本的施策はつぎの12項目が掲げられている。1.海洋資源の開発及び利用の推進 2.海洋環境の保全等 3.排他的経済水域等の開発等の推進 4.海上輸送の確保 5.海洋の安全の確保 6.海洋調査の推進 7.海洋科学技術に関する研究開発の推進等 8.海洋産業の振興及び国際競争力の強化 9.沿岸域の総合的管理 10.離島の保全等 11.国際的な連携の確保及び国際協力の推進 12.海洋に関する国民の理解の増進等。

海事クラスターによる国際都市「神戸」の再生を

海洋政策研究財団調査役 中地 登

神戸港はつい最近まで、世界最先端の国際貿易港として輝かしい歴史を示してきた。ところが、1995年1月の阪神・淡路大震災をきっかけに港の勢いは急速に衰え、今や世界から大きく取り残されつつある。シンクタンクとして海洋・海事問題を扱う海洋政策研究財団は、神戸に集積する海事セクターを再生の処方箋として活かすべく、昨年9月に地元産学官による研究会(正式名称=「国際海事都市神戸」再生のための研究会)を立ち上げた。そして半年をかけて検討した結果、2月の最終会合でその成果を決議文としてとりまとめた。そこに描かれた再生のシナリオは、知識集約型の実業クラスターを中核に地域振興を目指し、このための受け皿づくりへ早急に取り組むべきとした。

海事産業の相対的な地盤沈下

改めて指摘するまでもなく、この十数年で世界における海事産業の勢力圏が大きく変わった。港湾のハブ機能をはじめわが国が得意とする製造業も、その拠点はアジア諸国に移った。今や世界のコン

テナ船は中国、シンガポール、韓国といった国の港を中心に回っている。最新の世界港湾別コンテナ取扱ランキング(表1)をみても、かつて上位を占めていたわが国港湾は年々後退し、中韓のみでなく台湾、欧州の港湾に大きく水をあけられている。最近、中国経済の発展による影響で、わが国主要港の取扱貨物量が増えているといっても、アジア諸国の伸びに比べると低い。とくに神戸港ははまだ最盛時の水準に戻っていない。

造船業にしても現在、わが国は記録的な工事量を確保し経営は持ち直しているものの、新造船受注量では韓国に首位の座を譲り、まもなく中国にも追いつかれる見通しにある。船員の職場にも異変が生じた。外航船の乗組員はほとんど外国船員。日本人は余剰化するだけでなく、船員になる人材も年々先細り、この影響は内航海運にも暗い陰を投げている。このようにわが国経済の基盤を支えてきた海事産業が空洞化の様相を呈し、将来の経済安全保障上の観点から大きな問題となっている。

神戸のポテンシャルをどう活かす

衰退する海事産業をいかに活性化させるか。最近海事クラスターによる振興策が再びクローズアップされている。その手本となったのはマイケル・ポーターが唱えたクラスター理論である。つまり特定分野の産業集積・連携によって、企業同士がレベルアップ、競争力強化に結びつけようという産業振興である。いち早く取り組んだのはイギリス、オランダ、ノルウェーなどの欧州。近年は韓国の釜山などアジア諸国にもみられ、わが国の取り組みは遅れている。

そこで、海洋政策研究財団はわが国海事産業活性化の地域モデルとして、神戸における海事クラスターの立ち上げを考えたわけである。神戸は震災によって荷主・商社が域外へ移転、海運や関連産業も本社機能にとどまらず、企業の一部は東京へシフトしたが、それでも港運、倉庫、通関業をはじめ、海運、造船、船用、船級といった海事サービス企業はバランスよく存在し、加えて大学・研究機関等の教育機関にも恵まれ、人材・海事知識の蓄積が残っている。こうした神戸のもつポテンシャルを将来へ活かすべきと研究会を発足させたのである。

地元による準備委発足を決議

研究会は地元産学官によるメンバーで構成し、宮下國生神戸大学名誉教授を座長に選任、これまで3回開催してきた。その概要は海事クラスターの定義から説き起こし、神戸が抱える問題点を内外の海事都市と比較しながら分析を試みる一方、今後取り組むべき課題、具体化方策について検討した。各委員からは種々の意見が寄せられ、25項目にのぼる課題がリストアップされた。共通するのは「港を外して神戸の特色は出せない」という港の重要性。「人材確保が緊急の課題」であり、「人材供給の拠点を

にあってほしい」との期待を寄せたのは造船・船用メーカー。また、荷主からは「港の経済性、利便性がとくに大事だ」と強調され、「海と航空貨物の一体化」を求める意見がだされた。一方、神戸大学からは、海に関する全学の専門知識を総動員して「海に開かれた国際的な総合大学を目指す」意向が示された。そのほか、「神戸を瀬戸内クルーズの母港に」というアイデアも提案され、こうした声をもとにさらにこれから取り組むべき緊急テーマについて十項目を絞るとともに、実施体制とロードマップをつくりあげた。最終的にまとまったのは、当面の対策として6項目(表2)。注目されるのは、単に提言にとどまらず、具体化方策として独自の海事クラスター構築へ乗り出すこと。このために地元主導による神戸海事クラスター設立に向け、準備委員会の立ち上げを決議した。そして準備委員会の事務局は神戸大学海事科学部が当分の間担当し、神戸市及び神戸商工会議所の協力をえながら取り組む意向も表明された。したがって今後、神戸大学を中心に海事教育・人材育成の分野を先行して取り組むことになる。これが第1段階とすれば、第2段階は今後の運営体制が充実する中で、さらに国際ビジネスセンターの設置、国際会議開催事業、空港と連携した物流(シーアンドエア)システムの促進についても取り組むことになる。

“シンク”から“ドウ”タンクへ。これが当財団のコンセプト(姿勢)である。提案すればそれで終わりというわけではない。重要なのは仏作って魂を入れること。それは地元の熱意となる。おりから、新しい時代の風が吹いてきた。それは国の海洋基本法策定の動きと国土交通省が20年ぶりに見直す海運政策であり、今回の検討が新海洋時代の先駆けとなれば幸いである。

表1 世界の港湾別コンテナ取扱個数ランキング推移

単位:千TEU

港湾名	2006年速報値(順位)	2002年(順位)	1992年(順位)
シンガポール	24,792(1)	16,800(2)	7,560(2)
香港	23,230(2)	19,140(1)	7,972(1)
上海	21,710(3)	8,610(4)	
深セン	18,469(4)	7,613(6)	
釜山	12,030(5)	9,436(3)	2,751(5)
高雄	9,775(6)	8,493(5)	3,960(4)
ロッテルダム	9,600(7)	6,151(7)	4,122(3)
ドバイ	8,923(8)	8,923(8)	4,194(13)
ハンブルグ	8,862(9)	5,373(9)	2,268(8)
ロサンゼルス	8,469(10)	6,105(8)	2,289(7)
東京	3,685(23)	2,712(20)	1,728(14)
横浜	3,200(27)	2,364(26)	1,886(11)
名古屋	2,491(*)	1,927(31)	1,097(24)
神戸	2,262(*)	1,992(29)	2,608(6)
大阪	1,802(*)	1,514(42)	617(35)

出典: March 2007 CONTAINERISATION INTERNATIONAL
TEUとは長で20フィートコンテナを1単位とする換算個数
06年順位の数値は31位以下は省略。参考までに05年実績は名古屋34位、神戸39位、大阪51位

表2 「国際海事都市」再生に向けた今後の取り組み課題

当財団のテーマ	今後設定される検討課題
① メンバー間情報交換機能(船協会等の開催) ② ホームページ開設、外部との窓口対応 ③ 社会人向け大学院・専門教育プログラムの整備	④ 産学連携事業(運航管理、造船) ⑤ 技能、シーマンシップ継承事業 ⑥ 船旅による観光振興の検討
	・国際海事ビジネスセンターの設置 ・海事関連の国際会議の誘致 ・空港と連携した物流システムの促進

「しんかい6500」1000回潜航達成

独立行政法人 海洋研究開発機構 高川真一

1990年に竣工し、現役では世界でもっとも深くまで潜航できる有人潜水調査船「しんかい6500」が、本年3月15日ついに1000回目の潜航を行いました。場所は沖縄・石垣島北方約50kmにある鳩間海丘水深約1500mの熱水噴出域で、乗船者はノンフィクション作家で「メタルカラーの時代」などを執筆されている山根一真氏でした。

この場所では昨年8月の潜航で青色の熱水「ブルースモーカー」が噴出していることが確認されましたが、今回の潜航では残念ながら観察できませんでした。しかしゴエモンコシオリエビやヒバリガイなど多数の生物が熱水噴出孔周囲に群れている様子や高温の二酸化炭素素泡が湧き出している様子がハイビジョンカメラで撮影されました。浮上後揚取された「しんかい6500」は、ミニチュア火山である熱水噴出孔付近での潜航活動を象徴するかのよう、硫化水素の強烈なにおいがまとわりついていました。

潜航後、石垣港に着岸した3月18日、石垣市主催で約70名の小学生を対象にした「子ども深海教室」が開催され、潜水船パイロットや研究者の講演や今回撮影された海底の様子を示すビデオも紹介され

るとともに「しんかい6500」と支援母船「よこすか」の見学会が行われました。

この後「しんかい6500」と「よこすか」は3月27日、東京晴海ふ頭に入港し、同日から翌28日にかけて一般公開ならびに3月28日には山根一真氏による講演会を行いました。隣接する岸壁に係留中の学術研究船「白鳳丸」での研修を受けている女子中高生、そして春休み中の小中高生や学生等にぎわいました。また28日に行われた「ハガキに書こう海洋の夢」表彰式に参加した親子たちも一般公開に参加し、本物の「しんかい6500」を見て満足そうでした。

これらのイベントを通じて有人潜水調査船による深海調査の重要性が社会に強く訴えられたのではないかと考えております。

「しんかい6500」は17年間重大事故を起こさず、1000回目の潜航を迎えることができました。一方、米国や中国では7000m級の有人潜水調査船の開発が進んでいます。これまで多くの成果を深海より伝えてきた「しんかい6500」、今後も記録更新を目指すとともに次世代の潜水調査船への夢をつなぎたいと思います。



1000回潜航を終了した「しんかい6500」



「よこすか」船上での記念撮影



3月15日に潜航を終了して「しんかい6500」から出てくる山根一真氏



3月28日東京晴海ふ頭での一般公開

今年予定の主な海洋関係会議・講演会・イベント

名称	会期	開催都市	会場	website
第39回 海中海底工学フォーラム	5月21日	東京	東京大学生産技術研究所	http://underwater.iis.u-tokyo.ac.jp/forum/forum39.html
海事産業へのリスク・ベース・アプローチの適用に関するワークショップ	5/22~23	東京	海上技術安全研究所	http://www.nmri.go.jp/main/cooperation/imo_iso/contents/IMO2007/rbe-ws/rbe-ws_j.html
日本船舶海洋工学学会・平成19年春季講演会	5/24~25	東京	池袋サンシャインシティ文化会館・サンシャイン国際水族館	http://www.jasnaoe.or.jp/lecture_conference/lec_h19spr/index.html
2007年度海洋音響学会研究発表会	5/24~25	東京	東京工業大学百年記念館	http://www.masj.jp/index_j.html
海洋深層水21-海洋深層水利用学会10周年記念事業-(講演会)	5月25日	東京	日本財団ビル 大会議室	http://www.jadowa.org/information/index.html
第10回 マリノバイオテクノロジー学会大会	5/26~27	山形	山形大学小白川キャンパス	http://www.sbiol.kj.yamagata-u.ac.jp/~jsmb/mbt2007/
IWA-LET Conference on Water & Wastewater Technologies	6/3~6	シンガポール	Swissotel The Stamford	http://www.iwa-let2007.com.sg/index.html
第13回地下水・土壌汚染とその防止対策に関する研究集会	6/5~6	京都	京都大学百周年時計台記念館	http://www.gepc.or.jp/13kenkyu/annai.html
日本海水学会第58年会	6/5~6	東京	中央大学理工学部	http://www.swsj.org/
第2回オックスフォード神戸国際海事セミナー	6/13~16	神戸	セント・キャサリンズ・カレッジ 神戸インスティテュート	http://www.kobeinst.com/2rd_Maritime.htm
OCEANS'07 ABERDEEN-SCOTLAND	6/18~21	アバディーン	スコットランド	http://www.oceans07ieeababerdeen.org/
PACON 2007 (Ocean Observing Systems and Marine Environment)	6/24~27	米・ハワイ ホノルル	Ala Moana Hotel	http://www.hawaii.edu/pacon/P07%20Main.html
日本沿岸学会全国大会-門司港-	7/5~7	福岡	門司港	http://www.jaczs.com/
第32回 土木学会海洋開発シンポジウム	7/10~11	長崎	長崎ブリックホール	http://www.jsce.or.jp/committee/ocean/symposium2007.html
第17回 環境工学総合シンポジウム2007	7/19~20	大阪	大阪市立大学 杉本キャンパス	http://www.jsme.or.jp/env/
造船技術国際シンポジウム-塗装と工作-	9/6~7	豊中	千里阪急ホテル	http://www.jasnaoe.or.jp/lecture_conference/con_2007/syusai_details.html#070906
第14回 水中の健康関連微生物国際シンポジウム	9/9~15	東京	東京大学弥生講堂	http://www.watermicro2007.jp/
ITEAM2007 YOKOHAMA (The 21st Asian-Pacific Technical Exchange and Advisory Meeting on Marine Structures)	9/10~13	横浜	横浜国立大学 教育文化ホール	http://team2007yokohama.com/
平成19年度日本水産学会秋季大会	9/25~28	函館	北海道大学函館キャンパス	http://www.soc.nii.ac.jp/jsfs/index.html
日本海洋学会・2007年度秋季大会	9/26~30	沖縄	琉球大学工学部	http://www.soc.nii.ac.jp/kaiyo/mt3/2006/03/meetingsj.html
OCEANS'07 VANCOUVER-CANADA	9/29~10/4	バンクーバー	カナダ	http://www.oceans07mtsieevancouver.org/
環太平洋水中音響学会議	10/3~5	バンクーバー	ハイアットリージェンシーホテル	http://pruac.apl.washington.edu/
第37回 Underwater Mining Institute	10/16~17	東京	東京大学(本郷) 山上会館	http://www.underwatermining.org/
水中ロボコンin神戸07	11月11日	神戸	未定	http://www.j-sco.jp/aquarobo/kobe07/
OCDI30周年記念講演会 変化する世界の港湾とその課題	11月28日	東京	東海大学校友会館	http://www.ocdi.or.jp/jp/info/seminar061128.pdf

編集室から

21世紀は20世紀とまったく違う世界となりそうだ。東西貿易や南北問題を乗り越え、今ボーダレスでフラットな世界を形成しつつある。わが国も新時代へ向け、国創りが活発となってきた。道州制導入の動きや教育基本法の改正、さらには憲法改正まで一気に進む気配だ。海洋基本法の成立は縦割り行政から横断的取り組みへ、そして統括機能となる総合海洋政策本部が内閣に新設される。この意義は大きい。あえて付け加えれば、総理が唱える「美しい国づくり」に、「美しい“海”づくり」を企画し、世界に誇る「海」を取り戻して欲しい。(地)

Techno-Ocean News No.25 2007年4月発行(年4回)

発行：テクノオーシャン・ネットワーク

〒650-0046 神戸市中央区港島中町6丁目11-1
(財)神戸国際観光コンベンション協会内
☎078-303-7516 ☎078-302-1870
URL: <http://www.techno-ocean.com>
e-mail: techno-ocean@kcva.or.jp